

第8期第3回 福岡市市民公益活動推進審議会

- 1 **開催日時** 令和4年2月10日（木） 13:30～15:00
- 2 **場 所** オンライン会議／福岡市役所15階 1501会議室
- 3 **議 題** 【審議】基本方針に基づく施策の実施状況について
【報告】関連施策について
- 4 **出席者** （出席委員10名）
今井委員、駒田委員、下川委員、辻委員、寺島委員、萩沢委員、
深堀委員、藤本委員、森田委員、守田委員
- 5 **傍聴者** 2名

6 議事概要

【審議】基本方針に基づく実施状況について

資料1に基づき説明

- 【委員】事務局からの説明についてご意見、ご質問を。
- 【委員】報告の中で共働テーブルは利用者が少ないということだったが、原因をどのように考えているか。
- 【事務局】共働テーブルについては、市役所のなかで提案競技などにNPOが企業等とも区別なく参加対象となってきており、NPOとの共働が進んできているというのも相談が少ない一つの要因ではないかと感じている。共働テーブルについては、これからも周知に努めたい。
- 【事務局】今回共働テーブルを仕組みとしてやったところだが、実際、NPOと市職員がいろんなところで繋がっており、自身も直接NPOから相談を受けて個別に所属に繋いだことがある。今は様々な公募の際にNPOが対象に入ることは当たり前になっているので、数というより、相談があったものについて、うまくマッチングで共働まで繋いでいくということをするべきかと考えている。
- 【委員】相談数だけで見ると減っているかと思ったが、実績的には広がっているということに安心した。
- 【委員】募金箱の設置をするということだが、金融機関が現金による出納に高額の手数料負担を求めるようになり、私たちもNPOとして寄付金を集める活動をしているが、手数料の負担が重くなっているため、募金箱の設置を減らす方向で考えている。参考までにお伝えする。
- 【委員】寄付金が減少しているということだが、具体的に何か問題が生じているのか。

【事務局】昨年度はコロナ対応としての寄付を新たに募集したので、それが非常に増えたが、今年はその部分が大きく減っている。通常の寄付については、昨年同時期と比較すると、少しではあるが増えている。

【事務局】市がNPO法人への寄付をお預かりして、補助金を交付するという仕組みについて、制度創設当時はNPOセクターができたばかりだった。現在は、クラウドファンディングや、既にNPOが独自で、福岡市全体でみると億単位で寄付を集めておられることも踏まえると、相手が見えるところへの寄付という方に動いているのではないかと考えている。市役所を経由するという仕組み自体が時代にあっているのか、また、「こういう団体に届きます」というのをどう見えるようにするかについても、検討していきたいと考えている。

【委員】若い世代の中に社会課題の解決に対して何かやりたいという人が、結構いるのではないかという感触があるということだが、ハジメのイッポの参加申込者が減っていること、市民のボランティア参加が横ばいであることについて、コロナでそうなっていると分析されているのか、他に要因があるのか。

【事務局】ハジメのイッポは、令和元年度は前年よりずいぶん参加者が増えていたが、コロナ下で、プログラムはあるけれども活動自体を自粛されているところがあり、ボランティア募集や参加者が少なくなっていると感じている。

【委員】若い世代が、それぞれのNPOの活動自体への参加ではなく、NPO全体をサポートするようなことが考えられるのではないか。広報など自分の得意なことを社会貢献に結び付けるような新たな取組み、方向性があればお聞きしたい。

【事務局】そういったことのひとつとして、ハローソーシャルの取組みが挙げられる。ハローワークの市民公益活動版のようなもので、市民公益活動に参加したい人の情報と、協力してくれる人を募集している団体の情報を、あすみん館内に掲示してマッチングしている。

【委員】地域活動の実情をお聞きしたいが、資料2にも地域コミュニティの課題として、地域コミュニティを支えている方に高齢の方が多いとあるが、若い人の広報のツールと、地域で作成されているチラシなどの紙媒体が噛み合っていないのではないかと思う。ITを活用した広報について、地域で、企業などがお手伝いすること等は求められているか。

【委員】我々も中学生くらいが担い手として育っていくといいなと思っているが、そういう機会を与える場があまりない。一時期中学校のボランティア部ができていたが、子どもたちがボランティア活動として受け止めている内容と、実際に地域で取り組んでいこうとする内容が一致していないことがあり、運営面で工夫

していかないといけないと思っている。また、情報をどう発信してくか我々も悩みであるが、情報過多になって住民に十分伝わっていない面もあると思う。

【事務局】地域の広報のオンライン化について補足すると、やろうとしている自治協や町内会は出てきており、関係者へは公民館だよりや自治協だよりをLINE（ライン）で送る等されているところもあるが、まだ広がってはいない。また、地域と企業のボランティアを結び付けることもできていないので、コミュニティ施策とNPO施策の両面から考えていきたい。

【委員】共働テーブルや共創デスクが、待っているだけではなくて、課題を探して積極的に結び付けることができたらいと思う。

【委員】公益活動の見える化について、あすみんホームページの広報機能を利用される団体が固定化しているとのことだが、もしかすると、投稿のやり方を周知するというより、NPOが独自に広報するほうが実は効率がいいなどの問題なのかもしれないので、確認してはどうか。また、NPO同士やNPOと企業とのマッチングが少ないのも、何かしたいと思っても情報を得る手段が分からず困っている企業担当者もいるのではないかとも思うので、企業や地域などに対しての情報発信を検討されていることは良いと思う。

【委員】あすみんについて、自治協など地域側での認知が低いのが課題ではないか。去年、自治会長等とあすみんを勉強する研修会をしようと思ったが、コロナでできなかったので、引き続きそういう機会をつくっていきたいと考えている。あすみんでの公益活動が幅広く地域活動の中に活かされていければと思う。

【委員】NPOと行政の連携は個別の相談もありながら増えているが、さらにこれからNPO同士や企業などとの共働に取り組む必要があるとのことだが、団体や企業が直接的に繋がって共働するというのは難しい面もある。例えば、NPOの広報について、今まではNPOの中の人に発信力をつけてもらおうということだったと思うが、例えば、公民館を会場に、若者で発信が得意な人に対して、企業が協力して講座を行い、NPOの広報を一緒にやるということも考えられる。このように、様々なプレーヤーを組み合わせながら、共働ができるようなものをテスト的にやってみて展開していくというのも新しい共働のあり方ではないか。

【委員】公民館の存在をもう少し活かしていくべき。NPOや企業と繋がって、如何に地域に活かすかは、公民館の職員の方の情熱や取り組み方によるところがある。ぜひ地域とNPOや企業等を繋いで、それが地域に根を下ろしていくように、そういう流れをもっと活性化してほしい。

【委員】西区の各校区を回らせてもらっているが、課題として感じたのは、役員のなり手がいないことである。理由として定年年齢が伸びたために、定年を過ぎてから自治会役員をすることが難しくなっている。負担を減らして、現役世代の方も役員ができるように変えていかないといけない。また、地域にはNPOが活躍できる場がたくさんあるので、NPOの強みを活かせるような、NPOと地域とのマッチングが重要だと考えている。

【委員】地域の人手不足について、色々な市町村のアンケートを見ても、地域活動に参加しない理由として「誘われないから」という回答が一定数あるようである。つまり、やってもいいがどう繋がっていいか分からないという方が多い。そういう方とどう繋がっていくかにも、もう少し目を向けてもらいたい。

【委員】私たちの法人では、法人の広報を手伝ってくれるサラリーマンの方に、水曜日の仕事帰りに事務所に寄ってもらうという仕組みを作っている。企業でも広報系のことをされていて、NPOの広報に興味を持って自分の時間を削って携わってくれる方がけっこういる。自分のスキルが世の中のためになるのであればという気持ちで来てくださる。自己犠牲ではなく、2足目の草鞋として活躍できるという実感がもてるかどうかをけっこう大きいと思う。地域活動でも、「やりたい」と思えて、活躍している実感が持てれば、自然に集まってくると思う。マッチングももちろん大事だが、そうした実感が持てるかどうか、というところも考えていただきたい。

【委員】自分の時間を少し使ってボランティア活動したいという思いがある人に情報提供する場、アンテナがひっかかる場所があるとよい。その際、地域が求めているものと、個人の活動したい思いが違くとミスマッチになるので、お互いのニーズが明確に伝わるようになるとういのではないかな。

【委員】自治会を運営する立場では、子ども関係から繋がりが広がっていくことが多い。また、地域では様々な部署の市職員との接触があり、そこから情報が入ってくるので、市職員がNPOや市民公益活動を幅広く理解してくれれば、地域活動を活性化するひとつの要因にもなると思う。

【委員】ハローソーシャルやプロボノの話が出たが、あすみんのサイトを拝見したところ、プロボノの具体的なアクションの仕方までは記載されていなかったり、ハローソーシャルは工事中になっているようであるが、これから構築予定か。

【事務局】あすみんのホームページは、現在見直しをしているところである。あすみんと一緒に、より伝わるようにやっていきたい。

【委員】ホームページの見直しにあたっては、発信する側だけでなく情報を収集する側

の視点も踏まえてもらえたらと思う。例えば学生など興味をお持ちの方から意見をもらって参考にするなど。

【委員】マッチングをいかにやっていくかという方法論について、システムを使って双方が情報を登録したり発信できるのも大変良いと思うが、構築には費用がかかる。ひとつの例として紹介するが、あるグループで、フェイスブックで応援したい人に数百人登録してもらっているところがある。そこは若者支援で、一緒に食事をする機会をつくるような活動をしているのだが、例えば、食器が足りない、冷蔵庫がない、といったときに発信して、登録者の方に協力してもらっている。他にも、LINE（ライン）登録を活用している例もある。こういったことも、マッチングの可能性としてあるのではないかと思う。

【報告】関連施策について

資料2に基づき説明

○閉会

以上